

米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習：
大学での学習場面への対応を課題とした中級セッションの記録

田 中 共 子 ・ 高 濱 愛

米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習： 大学での学習場面への対応を課題とした中級セッションの記録

岡山大学文学部・田中共子、静岡大学国際交流センター・高濱 愛

【序】

留学生の異文化適応は、個人の努力や適性の問題と見なされることが多く、一時の苦労は普通のことだとして、不適応状態の経験を当然視する見方もある。しかし異文化間教育という発想を持つならば、教育的関わりによって滞在者自身の適応能力を向上させていく余地も十分にある。心理教育の形で介入実践を行い、異文化適応能力を向上させてから渡航させるという発想は、その一つである (田中・中島, 2006)。

我々はこうした心理教育の一つの形として、米国留学を予定している日本人留学生を対象に、アメリカで必要となるソーシャルスキルの学習セッションを試行した。本稿はその一部を報告するものである。ソーシャルスキルとは、対人的技能と言い換えることもできるが、人付き合いのコツを指すものといってよいだろう。それが文化圏ごとに異なるならば、それを学習しておくことは、滞在先での対人関係形成を有利にするだろう (Furnham & Bochner, 1986; 田中, 2000)。対人関係が速やかに形成されれば、社会的支援すなわちソーシャルサポートがより得られるであろうし、人との誤解やトラブルが減れば、異文化滞在者の大きな困難とされる対人ストレスを減少させることができる。

留学中の留学生を対象に、滞在先で有用なソーシャルスキルの学習を試みた報告 (Tanaka & Nakashima, 2007) では、短期効果、すなわちセッションにおける変化として、自信の向上や不安の低減、異文化接触の動機付けの向上が報告されている。さらに長期効果、すなわちセッション後一定期間を経た後の変化としては、学んだスキルの有用性が学習者に評価され、学習の仕方自体が会得され、対人関係に肯定的影響が感じられていたことが報告されている (Tanaka, et, al., 2007)。しかし渡航前に学習することができれば、渡航前の不安を解消したり、特に困難とされる滞在初期の混乱を軽減させることも期待できるのではないか。我々は今回、留学に出発する前の準備期間にある、留学予定者を対象にしたセッションを実践してみた。米国は日本人留学生の多くが目指す渡航先であるが、日本人の在米高校留学生 (八島・田中, 1998) や在米大学・大学院留学生 (田中, 1994) にとって、有用なソーシャルスキルに関する報告はあるものの、セッションの反応までを報告したものはまだない。

今回のセッションは、必要となるソーシャルスキルをある程度の範囲でカバーするため、短時間では終了できず、連続セッションの形をとって実施された。全3回、合計12時間の学習から構成されている。全ての報告をまとめると膨大な量になるため、本報ではうち二回目にあた

る、3時間分の学習について報告したい。3回分はほぼ初級、中級、上級と難易度を想定している。第一回と第三回についても、順次報告していく予定である。

以下では、セッションが参加者にどのような影響を与えるのかを、短期効果の視点からみていきたい。参加者において、セッション中の自己評価や他者評価、参加者による学習内容やパフォーマンス向上に関する自己認識、不安や自信などの心理面の変化を整理する。さらにネイティブから見た、彼らのパフォーマンスの変化について検討する。具体的なデータとしては、学習後に記した評定用紙への自由記述と、セッション中の発言をみていく。なお今回は質的な情報を中心にみていき、数量的な評価は別報に譲る。

留学後の現実的な影響を測る長期効果は、留学後調査の結果を待って検討していく予定である。そこではセッションの学習内容の妥当性と学習の効果、適応や困難の状態、学習したスキルの有用性を検討することを予定している。

【方法】

1. セッションの設定

2007年に一回目6月27日、二回目7月11日、三回目7月18日の3回からなる、アメリカン・ソーシャル・スキルを学ぶ、心理教育的な学習セッションを実施した。本稿ではうち二回目にあたる、大学での学習場面での振る舞いを取り上げた回について報告する。

2. セッション参加者

数ヶ月後に短期留学を予定しているX大学の学部学生のうち、準備研修の誘いに応じた者。謝礼として、留学先で役立つと考えられる、日本料理や日本紹介の英書と所属大学のグッズを

表1 参加者の属性と留学への姿勢

S 番号	年 齢	性 別	学 年	専 攻	海外渡航歴	渡航目的	最も 心配なこと	心配なこと				準備したこと	
								友人が できるか	社会や 文化に 適応で きるか	英語	英語の 勉強	情報 収集	情報源
S2	20	女性	3年	文科系	米以外の 英語圏1ヶ月	英語力	授業	○	-	○	○	気候など 現地の様子	インターネット
S3	20	女性	3年	文科系	米1ヶ月、 他英語圏 2カ国に 各1ヶ月	英語力、 異文化体験、 視野拡大	英語で積極的に 話せるか、環境に なじめるか	○	○	○	○	大学や寮	先輩、 留学生、 インターネット
S5	21	女性	4年	文科系	米1ヶ月、 アジア半月	経験	—	○	-	○	○	寮、クラス	留学経験者
S6	21	女性	4年	文科系	米1ヶ月	英語力	異文化の生活。 理解できない ことがあったら 落ち込みそう。	-	○	-	○	お金など 注意事項	インターネット
S7	21	男性	4年	文科系	米以外の 英語圏1ヶ月	英語力、 異文化体験	適応できるか	○	○	○	-	-	インターネット

渡した。セッション全体の参加者は合計9人だが、二回目の出席者は5人（表1）。彼らの英語力は複数の指標で測られているが、CBTで180～233点、TOEFLで523点などで、学部留学には十分な英語力と判断される。目的や準備状況など留学への姿勢を記述してもらった中から、関連が深いと思われる項目への記載内容を、表1に簡略に示す。なおS番号はセッション全体での番号のため、不連続である。全8スキルのうち二回目はスキル4とスキル5を学習したが、S7は一回目セッションに欠席したために、スキル1～スキル3の学習を経っていない。

3. セッションでの学習内容

一回目は、未知の人との関係の開始に焦点を当て、挨拶したり、話を始めたりするスキルを扱った。二回目は、スキル4として「先生に質問する」、スキル5として「授業中に意見を言う」という課題場面を取り上げた。既知の相手とのやりとりのうち、何らかの自分のニーズがあるときに、要望を伝えたり支援を求めたりするものである。合計3時間の学習時間をあてたが、途中で15分程度の休憩を一回入れて、茶菓子と飲み物を提供した。なお三回目は、様々な関係の人との交渉や主張といった、より難易度の高い対応である。課題の内容は、在米日本人留学生に有用なソーシャルスキルを解説した田中（1994）を参考に、短期留学生にとって遭遇する可能性が高く、対応が必要になると考えられる場面を設定した。

4. セッションの手続き

(1)スタッフ 講師は本稿筆者二名で、ともにアメリカ留学経験者である。準備や記録などのセッション補助は、日本人学生二名が務めた。ネイティブのアメリカ人学生2名が助言役を務めた。スキル4はJさん、スキル5はJさんとNさんが参加した。ともに日本語での日常会話能力を備えた、男性の学部留学生で、来日後約10ヶ月経っており、日常接する大学教員からみて異文化交流への関心が高いということで依頼した。在日留学生を選んだのは、参加者が留学先で共に学ぶ、大学生としての視点を持つ者であり、アメリカ人の学生としての意見が聞けること、および日本人学生の苦手なことやアメリカとの違いを意識して説明できることを期待したためである。

(2)導入 認知行動療法のソーシャルスキル訓練の手続き（Liebermanran, DeRisi and Mueser, 1992など）を基に、教育目的に作り替えた学習の方法を用いること（田中, 2007）、これは自分の行動レパトリーを広げておくためのものであって、行動の強制や修正を目的としたものではないこと、実際にどう行動するかは個人の自由であることを説明した。

(3)学習の手続き 英語でロールプレイをしていくこと、その後みんな演技のビデオ記録を見ながら「良いところ探し」のフィードバックをしていくこと、ネイティブ学生の意見や講師の説明も聞いて、もう一度ロールプレイを試みることにし、またフィードバックをして良くなったところを探すこと、知りたいことは質問できることを説明した。課題場面や説明は紙に印刷してバインダーで綴じ、テキストとして渡し、順次参照して貰った。テキストには評定や自由記述の用紙も挟んであり、記入して提出してもらった。自由記述の項目は、「1. 一回目の演技と二回目の演技を比べて、どこが違いますか？ (1)自分の演技について。(2)自分の気持ちについて。 2. 二回目のとき、どのようにしようとしましたか？ 3. 三回目ができ

るなら、どのようにしたいと思いますか?」。使用言語については、ロールプレイは全て英語、その他のフィードバックや説明や質疑の部分は、日本語と英語を交えて行われた。

5. セッションの整理と分析

セッションのビデオ録画から文字起こしを行い、詳細な記録を作成した。以下では、記録されたセッションでのやりとりと、演技をふり返った自由記述から、学びの様相を整理していく。

【結果】

1. 学習セッションの記録

(1) スキル4・先生に質問する

冒頭の導入として、「前は自己紹介や挨拶、友達作りを開始するときの言葉かけを学んだが、今回は一歩進んでアサーション、つまり自分の意見を言うとか考えを述べる、主張するコツや要領を学ぶ」と説明した。初回参加になるS7に学び方を説明し、全員に、学習方法への質問がないことを確認してから、テキスト(表2)のスキル4の課題場面を読み上げた。場面への質問がないことを確認してから、一人ずつ演技を促した。演技の相手である教員役は、ネイティブ学生が務めた。演技での対話を表3に記す。記録においては、Jはネイティブ学生のJさん、S番号つきは参加者の発言である。英語は訂正していないため、不正確な表現が混じる場合もある。プライバシー保護のため、個人情報に関する部分は伏せて記した。ネイティブ学生のコメントを要約して記す際には、適宜日本語に訳したり、日本語を補ったりした。

演技終了後、ビデオ再生を準備する間に、簡単に感想を聞いた。「難しかったか」には、S7とS3「難しかった」。「何を言おうと思ってしゃべったか」には、S3「勉強したいと伝えたかったが、言葉が出ない」。「どの辺が出ないか」には、S3「全体的に」、S7「英語でしゃべるのが難しい」、S6「伺ってすみません、みたいな感じを出したかった」。「日本語だったらすらすら言えるか」には、S7「ああ(うなずき)」。「緊張したか」には、S7「心臓バクバク」、S6「緊張した。毎週続けていけばなんとかかなりそうだが、台本がある」。講師からは、「行動リハーサル」が大事で、繰り返して練習すれば落ちついてできるだろう、と説明した。

続いて再生に入り、一人の演技ごとにテープを止めて”良かったところ”を、日本人学生に順に尋ね、後にネイティブ学生にコメントをしてもらった。質問は適宜受けていった。講師は、発言の趣旨を明確にしたり意見を引き出したりするための問いを挟みながら、意見をホワイトボードにメモした。表4に、出された意見の要約を記す。ネイティブ学生がアメリカでの学生と先生の間を述べ、講師はそれとテキスト(表2)の解説文を使って、対応の要領を説明した。質問のないことを確認してから、演技の評定用紙に記入してもらい、二度目のロールプレイに移った。要領は1度目と同じで、表5に対話を記した。

演技終了後、ビデオの再生準備の間に、講師が感想を尋ねた。「二度目のほうが少しはリラックスしたか」には、S7「緊張した。」S6「これだけ習ったから今度こそちゃんと、と逆に緊張した。」「緊張は英語にか、習った事を全部言うことにか」には、S7「両方。」「言い

表2 「スキル4・先生に質問する」と「スキル5・授業で意見を言う」に関するテキストの記載

【スキル4 先生に質問する】	
1. 課題場面	留学して初めての学期に、あなたは自分の専門である言語学のクラスをとることにしました。以前日本で言語学概論(入門)の講義を履修し、言語学は得意だったので、言語学上級のクラスを選びました。授業を受けてみると、言語学専攻の現地の学生ばかりが参加していて、専門用語がたくさん使われていて、進むのが自分には早すぎるように感じられました。しかし、せっかくアメリカに来たのだから、この講義を履修し続けて、是非単位を取得したいと思っています。そこで、担当の先生にアポイントメントを取り、今後どうするかについて相談することにしました。何とかしたいという気持ちを先生に伝えるには、どうすればいいでしょうか。(pp.228-229)
2. ポイント	先生に相談することは、学生の権利。攻めの学習態度を持って、積極的に自分の意欲を示して開拓して行きましょう。
3. 解説	アメリカの大学で学生として成功するためには、まず攻めの学習態度を持つことが大切です。例えば、アメリカでは、学生が先生に相談することは権利として認識されています。ですから、心配なことがあった時は、すすんで先生とアポイントメントをとって相談しに行きましょう。黙っているのは、あなたが問題をかかえていることが先生には伝わりません。問題点を自分から伝えることで、先生も対応してくれることが期待できます。
4. Useful expressions	<p>a. Excuse me. May I come in and talk to you for a minute? - Sure, come on in and have a seat.</p> <p>b. I am Yuri Takahara and I'm taking your Linguistics 302 class.</p> <p>c. This is my first semester (quarter) in the U.S., so I am having slight difficulty with listening of the class. I have been looking forward to taking this course, and I really would like to stay in your class. I would appreciate it if you could speak a bit slower, and summarize important points on blackboard. And I also would like you to spare some time for me after class from time to time because I would like to ask you questions.</p> <p>d. Actually, there are some things that I don't understand at all.</p> <p>e. Is there any way that I can continue taking your class?</p> <p>f. Could you tell me when your office hours are?</p> <p>g. Prof. Johnson, I've been having some trouble in your class and I would like to talk to you about it.</p> <p>h. I think your class is very interesting, but the assignments are too difficult. I'm trying my best but I don't think I can get all of them done.</p>
【スキル5 授業で意見を言う】	
1. 課題場面	教育学の授業中に、日本の学校における英語教育が話題になりました。どうやら日本の学校では、どのように英語を勉強しているのか、先生もクラスメイトも興味を持っているようです。日本の英語教育全般について英語で話すのは難しいですが、今までの自分の経験からなら少しは話すことができそうです。次の先生の台詞に続けて、簡単に言えることを説明してみましょう。(pp. 230-231) Prof. White: Could you tell us a little bit about English education in Japan? You graduated from Japanese schools, so you can tell us about how it is.
2. ポイント	授業中に発言することは、アメリカの大学で成功するために最も重要なことの1つ。自分の意見は必ず言いましょ。
3. 解説	先生から指された場合だけでなく、自分からも積極的にアピールして発言していきましょう。話の全体像がつかめていなくても大丈夫。経験に基づいた自分の意見を述べることも大切です。他のクラスメイトに遠慮をする必要はありません。
4. Useful expressions	<p>a. Based on my experience, it seems to me that...(eg. Japanese English education is less focused on conversation than grammar. When I was a high school student, I took 3 English grammar classes and no conversation class a week. This is because we usually need to take only paper-based English exams in order to pass university entrance exams. Actually, this is my very first experience to use English in a "real" setting.)</p> <p>b. In general, Japanese students/ teachers tend to...(eg. Japanese people have less opportunity to speak English outside of the classroom.)</p> <p><参考> 教育に関する用語: 初等教育 elementary education、中等教育 primary education、高等教育 secondary/higher education、入学試験 an entrance examination、塾・予備校 a cram school、義務教育 compulsory education、学校5日制 five-day school week system、学歴社会 education-conscious society</p>

かっこ内に表示したページ数は、参考文献(田中,1994)の該当箇所を示す

表3 スキル4・ロールプレイ1の対話

- S 2 : Hello.
J : Uh, hello.
S 2 : My name is ○○… I would like to take your class. My major is linguistics, so I studied introduction of linguistics in Japan. So I also study linguistics in USA and right graduate level in Japan. But the class is a little difficult for me because of difficult word of linguistic, so what should I do?
J : Uh…let's see. I can pair you with an English speaking student who probably gives you help at home if you want.
S 2 : Really?
J : Would that be ok with you?
S 2 : Thank you.
J : Of course.
S 2 : Thank you.
- S 5 : Hello, my name is ○○. I'm from ○○ University. My major is Linguistics, Japanese Linguistic. I want to take your class. I know your class is difficult for me because vocabulary, I don't have enough vocabulary to understand your class. But I will try hard, so I want to take credit before I go back to Japan. Is it ok?
J : Sure. Can I help you? What process do you need help?
S 5 : Um… I couldn't understand well. I will make appointment with you.
J : Absolutely.
S 5 : Is it OK with you?
J : Yes, my schedules are open in times.
S 5 : Thank you.
- S 3 : Hi. My name is ○○. I choose your class, Linguistic. I studied Linguistic in Japan. This class is difficult for me, but I would like to improve my ability. So could you get… please give me some advice.
- J : Of course. Any time you're troubled in class, you are welcomed to come make an appointment to see me in my office. So if you have problems, come talk to me, of course.
S 3 : Thank you.
J : Oh, you're welcome.
- S 6 : Hello, nice to meet you. I'm ○○ from Japan. I am an exchanged student here. My major is Linguistics in Japan. And this is my first time I saw you. I decided to take Linguistics' class you do. So I'm in the Linguistics' class. But I realized I cannot understand some difficult words in your class. But I want to keep studying Linguistics in your class, so could you please help me with my English in your office hour?
J : Oh, yes. I'll show you my schedule for office hours.
S 6 : Thank you very much.
J : You're welcome.
- J : Please come in.
S 7 : Hi,Hello. Do you have any time?
J : Yes, actually I have five minutes.
S 7 : O.K. Thank you very much. My name is ○○. I'm a student from ○○ University. And I came here as an exchanged student. Now I want to take your class, Linguistic class. My major is Linguistic. At first, I had confidence to take this class. But in fact, the vocabulary is very difficult, so there is nothing now. So please give me some advice. What should I do? I really want to keep up with this class. So please give me some advice.
J : If you have problems with just vocabulary, I can pair you another student so that help your homework. Would that be ok?
S 7 : Yeah, thank you very much.
J : You're welcome.

表4 スキル4・ロールプレイ1のフィードバックとまとめの要約

【S2の演技】

参加者 「自分が何故この授業をとりたのか、理由が言えていた。」「～だから難しい、～だからこうしたい、といった理由や気持ちが述べられていた」

Jさん 「最初に自己紹介や自分の英語のレベルなどについて話していた。自分に関する情報が伝わりやすい自己紹介をしていた。どのように大変なのかなどを、理由を言って伝えていた。My name is, I'm fromなどの自己紹介をすることによって教授側も生徒のレベルを理解でき、適切な助言ができる」

【S5の演技】

参加者 「考えているときでも、きちんと先生のほうを見ていた。そのほうが一生懸命さが伝わりやすいと感じた。自分のときはできていなかった」「授業を履修したいという意欲がとても感じられた」

Jさん 「アポイントなど、相手の都合を伺う態度がよかった。ずっと、先生のほうを見ている点も良かった。視線もずっと合わせていて良かった。It's more polite saying... May I make an appointment with you? It helps teacher remember. 相手の都合を踏まえていて礼儀正しく、とてもよい。Making eye contact will make good impression. ...Straightforward.」

S5（質問）「先生を見下ろしていても大丈夫か？」

Jさん 「目線は自然に合わせておけばよい。日本のように先生を上から見下ろす、下から見上げるなどは考慮しなくてもよい。直接見ていれば、目線の位置は関係ない。それよりも、きちんと直接アイコンタクトが取れているかどうか大切」

【S3の演技】

参加者 「アイコンタクトがしっかりとれていた。」「相槌ができていた。ノンバーバルな部分、態度がよくできていた。」「would you like to などの、丁寧な表現を使っていた」

Jさん 「ノンバーバルな部分がよくできていた」

【S6の演技】

参加者 「はきはきして、勉強したいという意欲も伝わってくるし、わかりやすくてよかった」「自信を持って言っており、またその姿がはっきりして聞いて聞き取りやすかった」

Jさん 「アイコンタクトやボディランゲージが良かった。'Nice to meet you' is more like friends...」

S6（質問）「“Nice to meet you.” はカジュアルな表現だから、先生に対しては使用しないのか」

Jさん 「(先生には) Excuse me? などを用いる。

例えば、Excuse me? My name is... I want to take your class... May I come in? は、ドアが開いていて、入っていかどうか迷った時に用いる」

S6（質問）「授業が終わった際に、先生と話をする際はどうか尋ねればいいのか？」

Jさん 「授業の終わりなどに、先生と話していかどうか尋ねたいときは、Excuse me? May I speak with you? などの決まり文句をよく使う」

【S7の演技】

参加者 「Do you have many time? などと尋ね、相手の都合を聞き、きちんと気を遣う事が出来ていた」「まず、自分の情報をきちんと説明し、そのうえで相手にどうしたらいいか助言を求め、相手の意見をきちんと聞く時間が取れていた」

Jさん 「どうすればいいですか、といったのがよい。Please...を使っていたのもよい。～がほしいというより先生の気分がよいと思われる」

S7（質問）「どうすればいいですか、と尋ねたいときの表現は？」

Jさん 「What should I do? や please tell me what I should do. を、よく用いる。または Please give me advice.」

S7 「アドバイスが欲しいと先生に言ったら、大体もらえるのか？」

Jさん 「大体もらえる。皆さんの態度はよいから大丈夫。聞いたら悪いかなど心配しなくてよい」

講師 「人にもよるかもしれないが、アドバイスをもらいやすい頼み方があるだろう」

【全員の演技】

講師 「自分自身の情報提供が、先生が英語力などを判断する材料に。どう大変かきちんと伝えていた」

Jさん 「先生が学生をアシストするのは当たり前の事」

講師 「アドバイスを求めるのは当然か」

Jさん 「学費を払っている。アドバイスを求めてよい」

講師 「情報をきちんと伝えよう。礼儀正しい態度をとりながら、よくある言い方を盛り込むと良い」

講師 「堂々と相談しに行つてよい。それは想定される行動。意欲を示して相談すれば、援助をもらえる可能性が高まる。日本との考え方の違いを意識し、アメリカ人の考え方を知った上で対応の要領を整理する。情報はきちんと伝える。礼儀正しい態度をとりながら、よく使われる言い回しなどを盛り込むとよい」

表5 スキル4・ロールプレイ2の対話

- S 2 : Excuse me?
 J : Oh, yes.
 S 2 : May I speak ...speak with you for a minutes?
 J : Yes, that's fine.
 S 2 : Un...I' m ○○ from Japan. My major is Linguistics. I' d like to your class to study more Linguistics. And I'd like...graduate... in Japan. But your class is difficult for me because of my language skill. So what should I do?
 J : If you have problems some class, you can come talk to me at any time. Or even raise your hand in class. I would be happy to repeat something.
 S 2 : Oh, thank you.
 J : You're welcome.
- S 5 : Excuse me? Can I talk with you?
 J : Of course.
 S 5 : I will take your class. It seems more difficult because there are many native students. Sorry, my name is ○○ from Japan. I came this month. I will try to study Linguistics because I major in Linguistics in Japan. I will take your class, but I think your class is so advantage. But I want to study because I'm in America. Would you mind to help me?
 J : That's nice. How exactly may I help you?
 S 5 : Maybe there are so many difficult words or I don't know how ... maybe the way to study Linguistics is different from Japan and America. So I wanna go to ask you, I wanna visit to you, so I will make a
 J : Yes, that's fine to make an appointment.
 S 5 : Oh, thank you.
- S 3 : Excuse me?
 J : Please. Come in, come in.
 S 3 : May I speak with you?
 J : Of course.
 S 3 : My name is ○○. I'm from Japan, exchanged student. I took a Linguistic class in Japan. And I had confidence. But your class is difficult for me because I can't understand difficult vocabulary. In addition, my English is not so good. But I would like to improve my ability. And I like Linguistic. Please tell me what I should do.
 J : Of course. If it's difficult vocabulary, I'd be happy to write words on the blackboard for you or maybe explain the meaning class. Would that be ok?
 S 3 : Thank you.
 J : You're welcome.
- J : Hi, please come in.
 S 6 : Excuse me? May I speak with for a while?
 J : Oh, yes.
 S 6 : Uh...my name is ○○. I'm from Japan. I will study in this university for one year. In fact, actually this is my first time in this university. And I decided to take Linguistic class. My major is Linguistic in Japan. And I really enjoy this class. I like Linguistic class, but I' m afraid I don't understand deeply in the class. So would you please give me some advice? What should I do?
 J : If you like, I'll ask an exchange student tutor to work for you, who will be able to explain the class clearly.
 S 6 : Oh, yes, I want. Thank you very much. I' m happy to hear that.
 J : Of course.
 S 6 : Thank you very much.
- S 7 : Excuse me? May I speak with you now?
 J : Oh, yes.
 S 7 : My name is ○○. I came here from Japan as an exchanged student. And I have a problem to take this class. My major is Linguistics. I learned the introduction of Linguistics. But it is difficult for me to take your class because of vocabulary problems and difference between Japan and America. But I really would like to keep up with your class. So please tell me your advice. And what should I do?
 J : Oh, my office is always open for students. So any time you have a question, you can come and make an appointment with me.
 S 7 : Thank you very much.
 J : You're welcome.
 S 7 : Thank you.

尽くせたか」には、S 2「日本ではこうだときちんと言えない。細かい部分がだめ。」。続いてフィードバック 2に入った。本人の努力点や感想も聞いた。意見の要点を表 6 に記す。最後に講師から努力をねぎらい、向上を讃え、練習や実施をするよう励ました。評定用紙に記入を依頼した。講師と参加者でネイティブ学生の協力に感謝した。スキル 4 の学習を終え休憩に入った。

(2)スキル 5・授業で自分の意見を言う

学習の要領はスキル 4 と同じだが、新たに加わったネイティブ学生 N さんを最初に紹介した。対話記録における N はネイティブ学生の N さんを意味する。スキル 5 は、授業で自分の意見を言う場面（表 2）。ロールプレイ（表 7）、1 度目のフィードバック（表 8）二度目のロールプレイ（表 9）、二度目のフィードバック（表 10）を実施した。最後にパフォーマンスの向上を讃え、参加者とネイティブ学生をねぎらい、評定用紙への記入を求めて学習を終了した。

(3)学習の感想

終了時にこの日のセッションの感想を、口答で尋ねた。S 6「(前回から)一週あいたので緊張した。知っている事は話せる。自分の専攻や学部の中だけにいたので、もっと広い視野で見たい。」S 7「有意義だった。一番良かったのは、恥をかくことに慣れてきたこと。この調子で頑張る。来週に期待。」S 3「すごく緊張した。練習するうちこういう場面ではこう言うとわかり、勉強になった。自分に自信を持たないと、人もエツという感じになるとわかったので、頑張りたい。」S 5「前回のような、話したことがある事柄に比べて、今回はずっと難しかった。わかっていることでも、急に説明してと言われると、何もわからなくなると実感。」S 2「場面設定が自分と似ており、これは自分だと思った。なるほどと思った。今回の内容を、生かせる状況に置かれる事が分かっている。絶対これを使おうと思う。」これらを聞いて、N さん "Definitely improved, at the second time."、講師「練習するとうまくなる。」、J さん "Impressed. Good. Won't have any problems." と述べた。講師からネイティブ学生に、一回目セッションとの比較を尋ねると、J さん "It was better. Self-confidence was higher." と応じた。最後に講師から、「慣れていないと萎縮しがちだが、それが取れるだけでも印象は違う。行動リハーサルを繰り返すと慣れる。不安も減り自信もつき、リラックスもできる。リラックスしたコミュニケーションは大切。行動レポーターを増やしておくといい。」とまとめた。

2. 演技のふり返りについての自由記述

表 11 に、演技のふり返りについての自由記述を要約した。緊張が強いが、二度目にはそれぞれ目標を持って挑んでいる。習ったことを使おうとしたり、伝えることを明確に表現しようとしている。二度目の方が、落ちついてできた、自信が持てた、要領が分かった、やりやすくなったといった記述がみられる。二度目の演技も本人は不十分と感じており、もっと練習したい、更にうまくやりたいと望んでいる。

表6 スキル4・ロールプレイ2のフィードバックとまとめの要約

【S2の演技】

参加者「一回目より落ち着いていたし、意欲が感じられた」「意欲や自信があった」

本人「言わなきゃ、言わなきゃという気持ちだった。言葉がすらすら出ないので、追い詰められる感じはした。自身があるというわけではなく、プレッシャーの中で一生懸命意思疎通をしたという感じだった」

【S5の演技】

参加者「すごくうまいなと思った。羨ましい」「とても滑らかな感じだった」

本人「自分の会話を画面で見たら、聞き取りにくいなと思った。もっと、発音をはっきりさせたほうがいいのではないかと思う」

Jさん「今の音量で大丈夫」

【S3の演技】

参加者「アイコンタクトがきちんととれていた。自分が発言している時も取れていて良かった」「相手に話すときの声の大きさと、笑顔が良かった」

本人「一回目よりは言えたと思うが、自信がなさそうに見えると思う。うまく言葉が出てこず、難しかった」

Jさん「If you feel nervous, you can practice before you talk to your teacher. 練習すれば大丈夫ではないか」

【S6の演技】

参加者「すらすら言えていて羨ましい」「先生にアドバイスをくださいと言った後に、どうしたらいいですか？と付け加えていた点が、やるな！うまいなと思った」「最後に、Thank you very much. と言った後に、I'm happy to here that. と言っていたのが、参考になった。自分も最後、ありがとうございました、の後に寂しいなと思っていたが、なんとと言えばいいかわからなかったで、こういうことを言えばいいのかと思った」

Jさん「最後は、多分、I'm happy to here that より、That will help me very muchという言葉のほうがいい。Thank you very much. That will help

me a lotという表現ならパーフェクト(O. Kサイン)。」
本人「頭が真っ白だった。緊張していた」

S5(質問)「I'm happy to hear that と That will help meの違いは？」

Jさん「I'm happy to hear that, when you receive new...news..., but you receive help, so... この場合は後者の方がよりよい。You tell your friends 'the teacher helped me.', your friend says 'I'm happy to hear that.'」

講師「よかったね、という感じや、非常に助かりました、というニュアンス。日本ではなかなか先生に“助かります”とは言わないので、言いにくいかも知れないが」

【S7の演技】

参加者「はきはきして聞いて聞き取りやすいし、自分が先生だったら教えてあげたいと思うような態度だった」「言いたい事がまとまっていた。言うべきところを全部言った後にアドバイスを貰うなど、全体的な流れがスムーズだった」

本人「緊張すると早口になる。声が低いのかどうかわからないが、全体的に声がかもって聞こえた」

Jさん「大丈夫。自信を持って」

【全体の演技】

Jさん「一回目に比べて二回目はとても良かった。For example, S6 said 'I'm having this problem, so please give me advice what should I do?' That's exactly like American.」

講師「OKレベルとのこと、自信を持って。言い回しを覚える事も大切だが、いいコミュニケーションができたという実感を持つ事が大切。そこから分かれる事、つながりあうことになる」

S2(質問)「会話中に、'えっと...'など日本語が出てしまうのだが、気になるか？英語でUm...などと言うのにはまだ抵抗があって、日本語で考えている気がする」。

Jさん「そう言ったとしても、日本語で考えているという感じがするだけ。別に問題ない、大丈夫」

表7 スキル5・ロールプレイ1の対話

J (教示文) : Could you tell us a little bit about English education you graduated in Japanese school? So please tell us.

S 6 : Well, I think English education is so popular in Japan now. Many parents want their children to learn English. And I went to a public junior high school for teaching practice. And I taught English to junior high school students. And I thought their English skills were good. One teacher teaches English phonetics, so I was surprised to see the high level proficiency of students.

J : They were very young but they were very skillful?

S 6 : Yes.

S 7 : Many people think English is very important as a second language. Long time ago, it was focused grammar in English. But now, it changed a lot. English is more communicative, and it is changed a lot. Furthermore, English is introduced to elementary school. So many people think English is very important as a second language. That's all.

S 3 : Now in Japan, English is popular. We learn English from junior high school. At first, we learn vocabulary and grammar. We seldom speak English, so I think Japanese people should learn

speaking.

S 5 : I don't major in Education, so I don't know the education, English in Japan now, what's going. It's changed a lot. I can tell you about it. I'll try to tell you from my experience. We start to learn English from twelve years old. And of course we don't use alphabet in our life. So we start from alphabet. Teachers try to spend a lot of time for grammar in my experience. So I heard some European people know native English speaker also starts learning English twelve or eleven. But the skill of English is so different. But in education in Japan some adults talk about education, especially English, the way to teach is not so good. so...I don't major in education, but interesting problem, I think.

S 2 : When I was high school student, I thought English class was very boring. Because Japanese English class, in Japanese English class, we don't speak English. We must memorize and listen what our teacher said. So and in the class, we must write down and memorize what the teacher said again and again. That is the Japanese high school education. So when I... I became...came to this university, I surprised that English class is very fun. I think Japanese English ... Japanese education of English difference from ... change? I can enjoy English in this university. That's all. Thank you.

表8 スキル5・ロールプレイ1のフィードバックとまとめの要約

【S6の演技】

参加者「伝えたいことがまとまっていて、簡潔」
「自分の考えがあるから聞いていて興味深い」

Nさん「経験に基づいていてよい」

Jさん「経験を言って、そこから意見が出ている
点がよい」

【S7の演技】

参加者「例があるのがよい」「前との比較があっ
てよい」

Jさん「専門用語が入っているとすごいと思う」

【S3の演技】

参加者「流れを作り、構成を考えて説明しようと
した」「経験に基づいていて共感できる」

Nさん「歴史の話と経験が入っていてよい」

Jさん「Pause, your voice is strong and clear.」

【S5の演技】

参加者「率直さ」「流暢。経験も入っている」

本人「語彙で弱気に」

講師「もっている力で話すと考えて」

Jさん「よく流れが整理されている」

Nさん「Comparisonがあると賢く感じる」

【S2の演技】

参加者「ボディーランゲージがある。詰まっても
あきらめなかった」「経験が基で、よくわかった」

Nさん& Jさん「Honesty is really appreciative.」

Jさん「つまらなかったとか楽しかったとか、個
人の感想がはっきり伝わってよかった」

講師「個人の気持ちや反応や考え、personal
responseは面白いか？」

Jさん「はい、面白い」

講師「アメリカ人は、パーソナルな部分が好き。
個人の話なんてと思わずに。一般論やありふれた事
より、個人的な意見や感情を盛り込むほうが面白い。
たとえ下手な英語でも、つまらない話ではなくおも
しろい話を」

Jさん「事実だけではつまらない。個人の意見の
ほうが面白い。堂々と自信を。If you feel confident,
I think, oh it was good. 萎縮して喋られると、聞いて
いるほうもそうになってしまう」

講師「コミュニケーションの姿勢や雰囲気は、相
手にも伝染する。言葉に自信がなくても、堂々と」

【全員の演技】

講師「文法より内容が注目される。自分の考えを
入れる。考えが自分の経験に基づいていると歓迎さ
れ、いい印象になる。事実、例えば日本の教育制度
は云々だけでなく、意見を。率直な意見は共感を誘
う。構成や組み立てがいいと理解しやすい。態度や
姿勢も大事。ボディーランゲージも良かった。後は
自信をもって」「聞き手は、どんな面白い話が聞ける
のか期待している。どのように伝えるかを先に考え
る。文法や語彙の不安はその後。わざわざその人か
ら聞いているからには、その人からしか聞けない個
人的な話が聞きたい。後は話の中身と態度に気をつ
ければ、印象はぐっとよくなる」

表9 スキル5・ロールプレイ2の対話

J (教示文) : Could you tell us a little bit about English education you graduated in Japanese school? So please tell us.

S 6 : In my opinion, English education in Japan is changing day by day. In my generalization, I mean all days in Japan, students must memorize only new words and grammar. They didn't have chance to speak English enough. Now the system has changed. Recently students can have more chance to speak, use English in classroom. And I'm sure there is one native English teacher...one native teacher in one school. I think there are one lesson in a week in our high school. Students can use English to talk with native teacher. I think it's good. Unfortunately, I don't think it's enough for second language acquisition. Yeah, it's my opinion.

S 7 : I think English education is in the revolutional period. Until about ten years old, it was focused about grammar and vocabulary very much. For example, when I was a junior high school student, I studied grammar grammar grammar, vocabulary vocabulary vocabulary, very boring for me. Now the system of English is changed a lot. The teacher try that English become more communicative. They try to teach communicative activity, as a result of this, students now of junior school can speak English. I think it's very good. Furthermore, English is introduced to uninteresting, but about this there was a big problem. The other subject have no enough time... English, but entirely I think English is very important as a second language. Thank you very much. That's all.

S 3 : In Japan, many people are interested in English now, I think. We start to learn English from

junior high school. And the teacher focused on especially grammar and vocabulary. We seldom can speak English. I think it was boring. So we have to learn speaking English more, I think.

S 5 : There is big changing education especially English, and I don't major in English education, so I'm not sure the education, how they are going. But from my experience, we started leaning English from twelve years old and started from alphabet to write. It's... the government try to start to student's start learning English from elementary school. Although Japanese student start learning English from twelve years old, they can't speak English. It's big problem for Japan. Whenever junior high school student, there was assistant English speaking teachers for us, but one teacher for four or five school in my area. So we could meet once a month, we could meet an English native speaker once a month. And I heard non-native English speaker, like from European countries can... start learning English eleven or twelve years. It's same age as us. But they could speak English fluently. So I think that the way to teach English was not good. and adult try to discuss a lot, maybe there is big change again. Or Japanese English education... there are two types of... from my generation I think there are two types of students who hate studying English or love studying English. It's because of that education. Thank you.

S 2 : When I was high school student, English is very boring. Because we must write down and must memorize what teacher said again and again. It is not communicative English. I surprised when I took English class in this university ,at first. And I wanted to learn more communicative English in my high school. That's all, thank you

表10 スキル5・ロールプレイ2のフィードバックとまとめの要約

【S6の演技】

参加者「前回よりも内容が付け加えられていた」
「構成を考えていて、聞いていて分かりやすい。落ち着きもある」

本人「もう少しgeneralなことを言おうと思った」

【S7の演技】

参加者「詳しく説明していて、上達していた」「接続詞をきちんと使えている」

【S3の演技】

参加者「落ち着いて話している。好感がもてる」
「前回の指摘を踏まえていた」

本人「自信をもって話そうとしたが、自信がない」

講師「聞き手は自信を感じた。自信をもって話そうと心がけるだけでも変わるのでは」

【S5の演技】

参加者「クリアで聞き取りやすい」

本人「間が空いてしまう」

Nさん「ポーズをとるのはまとめている印象を受けるだけ。長すぎないかぎり心配いらない」

【S2の演技】

参加者「元気がよく、楽しそう」

本人「心の中では自信がないけれど、できるのよと思ってやってみた」

講師「生き生きとした感じ、楽しそうな雰囲気を入れる事が得手という個性はいい」

S7（質問）「アメリカのクラスでは、意見を主張するのが大切だといっても、上手に発言できず流れを止めてしまった場合、授業後に、あいつ嫌なやつだな、などと思われるのか？どう思われるか？」

Jさん「Even if it's not good, it is OK. 意見を述

べているだけ」

Nさん「I don't think it bothers.」

【全員の演技】

Nさん「Without reason, make sure the opinion weaker. 意見を言う時は、理由が必要」

Jさん「I feel this way because…」～だから～と思う、と言う」

講師「日本で話すより、もっと努力して理由を言う練習を。アメリカ人が期待している理由は、より細かくて長い。そこまで言ったらしつこいのではと思わずに、言ってみる。察して欲しいとか気がついて欲しいとか、日本ほど期待はできない」

S5（質問）「日本のクラスは規模が大きい。Are there also small school?」

Nさん「It depends on school, major」

講師「教養などは基本的に人数が大きいのが、ティーチングアシスタント、つまり大学院院生のバイトがアドバイザーにつくことも。その人を通しての質問もできる。学年、専門性が挙げればクラスの規模は小さくなる」

講師「ティーチングアシスタントに質問をするときは、どうしたらいいか？」

Nさん「It's similar to senpai. 先輩に付き合うような感じで。でも日本の“先輩”とは違う。We don't have any relationship like that, 部活動でも、みながいる所に行ってサインすればいいだけだし」

講師「彼らのパフォーマンスは、アメリカの授業で行われたとしたら、大丈夫か？」

Nさん& Jさん「大丈夫」

表11 演技のふり返りについての自由記述の要約

	参加者	一回目と違うところ		二回目のときどのようにしようとしたか	三回目ができるならどのようにしたいと思うか
		自分の演技について	自分の気持ちについて		
スキル4	S2	アイコンタクトを絶やさないうようにしようとした	フレーズを知って強みが持てた	一回目のアドバイスを生かそう	もうすこしはきはきとスムーズに、ちゃんと言葉が出るように
	S3	すらすら言えた	リラックスできた	きちんと自分の意志が伝わるように変な英語でも頑張ろう	もっとすらすらしゃべれるように習ったことを活かしてがんばりたい
	S5	見下ろし気味の視線に問題は無いといわれたので、堂々と目を見ることができた	一回目と同様落ち着きがなかった	一回目で出たフレーズを取り入れよう	ある程度流れやせりふをまとめてから練習したい
	S6	もう少し落ちついた感じでやりたい	頭の中が真っ白。一回目に出たポイントを使って話そうと必死だが、緊張しすぎてうまく言葉が出なかった。	もっと丁寧な表現を使おう。このクラスが好きなことと意欲を伝えようとした。	もっと落ち着いて。話す内容を頭に入れておく。
	S7	何を伝えるか明確なので自信を持てた	有効な言い回しが分かったので、若干リラックスできた	習ったことを最大限に使おう	習った言い回しを使おう
スキル5	S2	自信を持って演じよう	落ち着こうと思った	変な間があいてしまわないように	もう少し自分の意見を加えて内容を充実させたい
	S3	もっとはきはきと恥ずかしがらずに	もっと自信をもった方がよい	自分の意見をもっと交えて理解を得よう	習ったことを全て出しきれるようにもっと自信をもって
	S5	1回目よりよくしようとしたら頭が真っ白に	2回目の方がテーマが分かっている気が楽	もっと理論的にわかりやすく説明しよう	順序よく簡潔に、ゆっくりと落ち着いて説明したい
	S6	1回目は答えるべき内容がずれていたのを修正した	馴染みのある話題なので、少し落ち着いてできた	もっとアイコンタクトを。個人的な感想を述べよう。	もう少し接続の言葉を使ってわかりやすく
	S7	1回目は時間がなくてまとめきれず。二回目は自分の経験を入れられた。	自信が持てた	習ったことを全部だそう	理由を長くしたい

【考察】

本セッションは7月初旬に実施されたものだが、参加者は秋学期からアメリカの大学に留学予定であった。短期海外滞在の経験者が多く、アメリカ訪問の経験者も4人いる。文化的差異の存在は予想していたようで、留学で「最も不安なこと」に適応やコミュニケーションと書いたり、「友人ができるか」や「社会や文化に適応できるか」が心配だと答えたりしている。つまり、社会文化的適応について、少なからず心配を抱えていることが伺われる。しかし彼らが準備のために集めた情報は、制度や生活上の注意事項が主であった。対人関係における文化差と対応に焦点をあてるような準備はみられない。

対人関係の文化差をスキル4で考えてみるなら、先生の職務の捉え方や学生としての接し方が、日本とアメリカとでは微妙に違うという点が注目される。もし、アメリカにいるのに日本文化に即した判断をして、黙って遠慮し続けていたならば、自分の困難もニーズも教師には伝わらないだろう。このような学生の困難は、アメリカでは教師に伝えても構わないことであり、むしろ伝えれば解決へ動き出すと解説された。できる限り発信して自分から求める、能動的な

態度を形にするソーシャルスキルが期待されている。助言役のネイティブ学生は、“教師は学生の支援をする役回りを持ち、日本より気軽に接することができるから、遠慮する必要はない”といった意見を述べていた。

積極的に自主的な動きが、学びの環境の開拓に繋がるという意識を持つかどうかは、留学の成功にとって大事なことであろう。いわば「攻めの姿勢」で学ぶ態度を身に付けられるかが後の学習を左右するという意味では、学業の成否に関わるスキルといえるかもしれない。学習者の語彙や文法は一定レベルにあるが、セッションでは、いわゆる文化文法に則した対人行動の中に言葉を組み込んで使い、対人的な接触と相互作用を進めながら、適応に資する援助の獲得を働きかけることを練習した。彼らの心配とニーズに十分呼応した課題設定ならば、真剣なパフォーマンスに繋がりがやすく、学習の効果も上がりやすい。学習者の反応をみると、自分の立場と課題とを重ね合わせながら学んでいる様子が伺われる。

スキル5では、授業中の学生の行動を取り上げた。授業中の個人の発言は、日本の一般的な授業よりも期待されているので、彼らは授業の進め方の違いを理解して、行動規範を修正せねばならない。質問や意見を、授業の妨げや勝手な要求と思うなら、発言を遠慮したくなるかもしれない。しかし、意見を言うことは、授業にまじめに取り組んでいる証という考え方をすれば、授業への関与を示すために、何かを言う必要がある。大学の授業におけるこうした規範と行動様式の存在は、アメリカの文化を背景にしたものである。アメリカ文化の考え方と振る舞い方を総合した、具体的な理解がすなわち認知的学習であり、具体的な行動獲得がすなわち行動的な学習である。参加者は、考え方の違いに気づいていき、自分の思いとのずれや心配について質問し、認知的な学習が進んでいると考えられる。習った言い回しや態度を積極的に取り入れており、行動的な学びも進められていると考えられる。

参加者は、ロールプレイではかなり緊張していた。しかし自由記述やセッション中の感想をみると、繰り返すことで慣れや安心、達成感が生じていたことが分かる。ネイティブ学生のコメントからは、参加者の演技が、アメリカ人にとって違和感の少ない演技に変わっていったことが伺えた。外国人らしさが残っていても、認容されるレベルだという発言もある。二度目の演技の方が、内容が詳しく発話量も増していることが、対話記録から分かる。態度も堂々としてくると、他の参加者は評価している。演技者自身が気分的に楽になっていることから、感情面の効果が確認できた。行動方針がよりの確に定められていくことから、認知的な理解の効果が確認される。他の参加者らがパフォーマンスの向上を感じ取っていることから、行動面での効果を確認できる。つまり感情、認知、行動の三側面における、セッションの効果が示唆される。

もし3回目の演技ができるならどう演じたいか、と聞くと、フレーズをうまく繰り返すことを挙げた者が多い。学習に際しては、これは英語の授業とは異なる行動の学習だと伝えてある上に、考え方の違いに焦点をあてて実技をすることで、理解や慣れを得ることが目的だという説明もしてある。この意味では、言い回しに言及することは、本学習の目的とややずれた印象を残す。しかしこれは、場面での考え方を理解して、その上で態度の方針を決めて、始めて可

能になるような、高い完成度を表現した目標かも知れない。あるいは日本の教室で日本人と話す模擬場面ゆえに、自然さが少なく、英語での対話練習の感が強かったのかもしれない。視線などの非言語成分への言及も多いが、これは第一回目のセッションで扱った視点なので、気づきやすかったのかもしれない。

発言の記録を見ていくと、ネイティブ学生のコメントには、文化的洞察が含まれており、他の参加者のフィードバックとは質が異なることが分かる。講師は、参加者とネイティブ学生の二者の視点をつなぐ役をしながら、文化的視点からの解説を適宜加えている。文化的洞察が進むよう質問を投げかけたり、注目すべき点を繰り返したり、コメントを挟んだりしていている。日本人学生にはアメリカの文化的理解が進むよう言葉を補足し、ネイティブ学生からは日米の文化的な対比と、実施の要領に関する発言を引き出していく役を取っている。ネイティブ学生はホストのサンプルとしての役回りが期待されているが、彼らは在日留学生としての学生生活を通じて、日本の文化行動をある程度知っているため、対比的な説明ができる。この点では、助言者としての資質が効果的に発揮されている。日本人学生の方は、留学に必要な英語力はすでに備えている。そこに異文化圏の文化的知識を加えることで、言語・非言語成分を含む対人行動を、文化文法に則して実施できるよう、行動の選択肢を増すことを目指している。日本人学生は、行動の要領を知ったことを有益だと捉えており、行動実施への意欲を語っている。彼らの主観のレベルでは、およそセッションの意図に即した反応が得られていると言えるだろう。

今回は日本文化を知るアメリカ人留学生が助言者役を務めた。また自らの留学経験を背景に、場面を現実的に想起できる講師がいた。また学習者も、適応力向上への動機付けが高い、留学準備者であった。これは学習を進めやすい構成であったといえる。講師や助言者は、複数文化に触れた経験を持つ者の方が、文化的仲介者の役回りをとりやすいと考えられる。ただし助言や説明における個人差や典型性は、今後の検討課題に含まれる。評定の多角化と精緻化も、残された課題である。セッション中の変化については、評定法で得られている自己評定の分析と、ビデオ記録された演技に関する第三者による他者評価、留学後の効果を見る長期効果を、引き続いて実施し報告していきたい。ロールプレイの単純な繰り返しや演技順序の効果、人為学習と自然学習との差異なども検討を要する。セッション自体の構成にも点検と洗練が求められる。さらに課題場面は、学生のニーズに対応した多様な場面設定を用意して、選択できるようにしたい。今回の対象者は同じ大学に所属し、能力的には比較的均質で、学習の動機付けも揃って高いうえ、留学予定のため問題解決的な学習も成立しやすかった。しかし将来的には、学生の力やニーズにあわせた、より細やかなセッション運営も考える余地があるだろう。

引用文献

- Furnham, A., & Bochner, S. 1986 *Culture Shock*. London: Methuen & Co. Ltd.
Lieberman, R.P., DeRisi, W.J., & Mueser, K.T. 1989 *Social skills training for psychiatric patients*. Oxford: Pergamon Press. (池淵恵美 (監訳) 1992 『精神障害者の生活技能訓練ガイドブック』 医学書院)
田中共子 1994 アメリカ留学ソーシャル・スキル：通じる前向き会話術 アルク

- 田中共子 2000 留学生のソーシャルネットワークとソーシャルスキル ナカニシヤ出版
- 田中共子 2007 人間関係のゲーミング・シミュレーション：共生への道を模索する（藤原武弘編著）第9章
「異文化適応方略としてのソーシャルスキル学習」 北大路書房, 179-200
- Tanaka, T. & Nakashima, N. 2007 Experimental group session for cross-cultural social skills learning for international students in Japan. 7th Conference of Asian Association of Social Psychology, Kota Kinabalu, Malaysia.
- 田中共子・中島美奈子 2006 ソーシャルスキル学習を取り入れた異文化間教育の試み 異文化間教育, 24, 28-37
- 八島智子・田中共子 1998 第二言語使用者のソーシャルスキルと異文化適応 ことばとコミュニケーション 2, 英潮社, 14-26

註1. 本研究は平成科学研究費補助金・萌芽研究 No.19653099（代表・高濱愛）の助成を受けた。

2. 上記補助金による研究組織の代表者は本稿第二著者で、第一著者が共同研究者。研究の企画・実施・分析を共同して行った。本稿の主な執筆作業を第一著者が担当。